

海自ヘリで体験搭乗



フライト前、緊張した様子の参加者

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚3陸尉）は、5月24日（土）、海上自衛隊厚木航空基地で行われた募集対象者の哨戒ヘリコプター（SH60J）体験搭乗を支援した。

初めは緊張した面持ちの学生達ではあったが、江ノ島等の上空の空中散歩し終えると、「着陸の時が怖かったけど、また乗りたい！」と興奮した様子。「次回、P3Cの体験搭乗があったら乗る？」の問いかけに大きく頷いていた。また待ち時間にターミナル内の資料館見学や、広報用ビデオ上映などが行われ、有意義な1日を過ごした。

相模原地域事務所は、「今後も各種イベント等に積極的に参加し自衛隊の魅力を誠心誠意伝えていく」としている。

入隊後も、連携を継続



事務所を訪れた田中1士（中央）と所長（左）・担当広報官

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 平原1陸尉）は、6月13日（金）、昨年自衛官候補生で入隊した田中1士が募集案内所を訪れ、近状を聞かせてくれた。

田中1士は、富士地区での新隊員教育と部隊勤務を経て今年8月に第1空挺団（習志野駐屯地）へ異動する予定となった。「入隊当初から空挺を熱望していました。夢が叶いそうです、空挺降下が楽しみです」と嬉しそうに話してくれた顔は日焼けし礼儀正しさと逞しさが加わっていた。担当広報官は、入隊当初から電話やメール等で激励を続けるとともに御家族とも連絡を取っていたという。

市ヶ尾募集案内所は、「今後も、我々が担当し入隊が叶った隊員及び家族との連携を継続して、自律できる隊員になれるよう協力していきたい」としている。

自衛官制度説明会を実施



事務所内での制度説明会

神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 林1陸尉）は、6月9日（月）、11日（水）及び13日（金）、事務所において自衛官制度説明会を実施した。

担当地域の学生等に自衛官制度を理解してもらうためホームページ及びチラシでPRしたところ、6名の参加者があった。次回は8月及び来年1月に実施を予定している。

小田原地域事務所は、「今後も地道な広報活動を展開し、西湘地区から多数の入隊者を排出したい」としている。